

平成29年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	豊かな人間力を備え創造性に富み、山形の未来をひらく社会的使命を自覚する、健康で実践力のある工業人の育成を期す。
--------	---

本年度の重点目標	1 明瞭で積極的な学校運営
	2 学習指導の充実
	3 生徒指導の充実
	4 進路指導の充実
	5 地域産業界と連携した工業教育の推進
	6 危機管理の徹底
	7 キャンパス制の推進

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

目指す学校像	(1)常に前進する学校 (2)地域に根ざし、地域に開かれた工業高校 (3)一人ひとりの個性を生かし、将来、工業の各分野で活躍できるスペシャリストを育てる学校
目指す生徒像	(1)基礎学力を身に付け、ものづくりができる工業技術者 (2)礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒 (3)自己を理解し、自己実現に向かって努力する生徒 (4)豊かな感性と社会性、国際感覚を持つ生徒
目指す教師像	(1)使命感を自覚しプロ意識が高く、常に学び続ける教師 (2)生徒、保護者、地域社会より信頼される教師 (3)生徒の能力と個性を生かし、社会で活躍できるスペシャリストを育てる教師

自己評価				
番号	評価項目	具体的方策（29年度）	数値目標	達成度
1	学校運営	①「目指す学校像・生徒像・教師像」の実現に向けて、全職員・全生徒の共通理解の下、協働実践による明るく生き生きとした教育活動の実現を目指す。 ②開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③教職員一人ひとりが自己研鑽に励み、教員力の向上に努める。	・PTA総会に保護者の参加率を60%以上とする。 ・学校ホームページを月1回以上更新し、情報発信に努める。 ・全職員が参観できる授業研究週間を2週間設定し、教師の授業力を付ける。	B
2	学習指導	①面白く、わかりやすい授業を工夫するとともに、主体的・探究的な学びに向けて授業改善を進める。 ②基礎学力定着、学力向上の取組みを充実させ、生徒の主体的な学習を促す。 ③言語活動、読書指導を充実させ思考力、判断力、表現力を高め、人間力豊かで国際的視野を持つ生徒を育成する。 ④資格取得の取組みを充実させ、技能検定合格率60%以上を目指す。	・年間出席率99%以上を目指す。 ・生徒の授業満足度 3.0以上を目指す。 ・入学定員充足率100%を目指す。	B
3	生徒指導	①生徒一人ひとりの規範意識と社会力を高め、家庭・地域及び関係機関との連携を密にして、問題行動やいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ②キャリア教育の視点により、生徒一人ひとりの特性に応じた日常生活指導と教育相談活動等の充実を図る。 ③全国に発信できる「ものづくり」や研究活動、全国に挑戦できる部活動を推進する。 ④特別支援教育を推進して、個に応じた支援体制を充実させる。	・問題行動「0」・盗難「0」をめざす。 ・いじめ「0」、もしくは、早期解決100%を目指す。 ・県大会出場部100%をめざし、東北・全国にも出場する。 ・不登校傾向生徒「0」をめざす。	B
4	進路指導	①進路希望を高く持って、それを達成できる人材を育成する。 ②キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。	・希望進路達成100%を目指す。 ・民間就職と進学学の1回目での合格をそれぞれ80%、90%以上を目指す。	B
5	地域と連携した工業教育	①資格取得を目指し、知識、技術、専門性の高い人材を育成する。 ②ものづくり教育の質を向上させると共に、新たな時代の要請に応え、地域の発展に貢献できる工業教育を推進する。 ③課題研究の充実を図り、課題研究校外発表会等を通して、生徒に誇りを持たせられるように努める。	・各種資格取得に意欲的に挑戦し、技能検定では50名以上の合格者を目指す。 ・ものづくりコンテストや各種大会に参加し、県大会上位入賞を目指す。 ・課題研究では各科7つ以上のテーマで研究を行い、全校課題研究発表会を通して、取り組み内容を保護者や地域の方々にも知ってもらう。 ・公開講座など地域に開かれた取り組みを各科1回以上実施し、専門分野の教育活動を広く地域にPRする。	B
6	危機管理	①防災意識の徹底、不審者への対応及び学校情報管理の理解と徹底を図る。 ②生徒・教職員の心と体の健康管理に努める。 ③公金等各種会計処理の適正化に努める。	・避難訓練を年2回実施し、危機意識を高める。 ・救急時の対処講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・定期健康診断報告書での受診率50%以上をめざす。 ・公金等執行状況報告に合わせ会計指導を実施する。	B
7	キャンパス制	①左沢高校と協力し、キャンパス制の連携・交流を充実させる。	・合同講演会を開催し、両校の交流を図る。 ・生徒会など生徒同士の交流を年2回以上行い、交流を深める。 ・互いの授業参観を2回以上設定し、教員の授業力向上を図る。	B

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
・ 神興まつり後の清掃を生徒が一生懸命やっている姿が非常にいい。 ・ 中学校では、工業高校ともしっかり交流したいとの話がある。中学生を入れての説明や学校見学をさせて欲しい。 ・ 寒河江には世界に誇れる企業が沢山あることを小・中学生は知らない。中学校の先生も工業にも目を向けようとしている機運を上手く盛り上げて欲しい。 ・ 神興まつりの交流は続けてほしい。また多くのOBがリーダーとして頑張っていることも生徒たちに伝えてほしい。 ・ 昨年度の学校関係者評価は、きちんと分かりやすくまとめている。見せることでPDCAをしっかりと回すことが大事。また、上手く楽しませる感動させるような演出も大事である。そうすることで周りを味方にすることもできるし、力を貸してもらえるようになる。 ・ 先生方が元気で輝いていると、子ども達は惹かれて、進路にも活かされていくもの。先生方には演出も大事なのは、建設業も全自動へ移行し、大きく変わってきた。いろんな技術が関連し、工業高校の存在が大きくなってきている。 ・ 「寒河江に戻ってこいよ」については、疑問である。生徒の伸ばせるところは伸ばしてあげるべきで、先生方も生徒の良いところは是非見て、伸ばして欲しい。 ・ 日本だけで縮こまっていないで、「世界を見て来い」と生徒の背中を押して欲しい。そして、帰らなくなったら「日本に帰ってこいよ」でいいのでは。 ・ 生徒のあいさつはしっかりしているが、元気が足りずることがあり、実際の面接などでは切り換えができていない心配である。先生方から指導をお願いします。 ・ 就職の面接では、面接の答えを求めて採用するとは限らない。面接は間違ってもよい。きちんと答えているか、	

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他 学校関係者評価委員の皆様からは、学校の取り組みに対する温かい励ましをいただき、目標をほぼ達成しているとの評価を得ることができた。2回の会議で参加された委員の方々からいただいた様々なアドバイスを今後の学校運営に役立てていきたい。